

開催日：5月12～13日 開催場所：富士スピードウェイ 格式：準国内 主催：富士スピードウェイ(株) [団体登録No.公認13003]、FISCO-C [クラブ登録No.公認13008]、NDC-TOKYO [クラブ登録No.公認13003]

フォト／石原康 レポート／はた☆なおゆき

スーパーFJは開幕戦に続き石崎竜一郎選手が連勝!



スタート時の遅れをリカバーする好走を見せ、見事に2連勝を飾った石崎竜一郎選手。

富

士チャンピオンレースシリーズ第2戦が、5月12～13日に富士スピードウェイで開催された。土曜日は汗ばむぐらいの好天に恵まれたものの、日曜日になると天候は一転。午後から雨が降り始め、ラストの2レースはセーフティカースタートでの開始となり、4周の先導の後、赤旗が出されて終了と、レースは成立したものの、不完全燃焼

感が残った。

スーパー FJは開幕戦を制した石崎竜一郎選手がポールポジションを獲得。だが、荒川麟選手にコンマ08秒差とあって、「スリップストリームを使って出したタイムなので、走りそのものには納得していませんが、その分レースで離せられればと思っています」と石崎選手。決勝ではスタートに遅れた石崎選手だったが、す

ぐに荒川選手を抜き返し、さらに渡辺大祐選手を加えた2周目の1コーナーでのトップ争いを、

このレースのハイライトとした。3台は並んで飛び込み、先頭で立ち上がったのが石崎選手。荒川選手と渡辺選手のバトルがなおも続く間にサポートをかけ、そのまま逃げ切った。「差が開いてからは、とにかくミスしないように走りました。2連勝できて良かったです」と石崎選手。

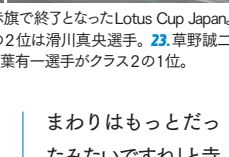
NA8とNB8が統合され、5クラスの混走で争われることとなったロードスターカップは、これが今季初戦。ポールポジションは池島実紅選手が、昨年のチャンピオン山田健介選手を従えて獲得し、トップ4を1.8クラス勢で占める中、5～6番手に2.0オープンクラスの高橋裕



1. 予選2番手の荒川麟選手は2位入賞。2. トップ争いは2周目1コーナーで勝敗を分け、石崎選手がうまく逃げ切った形に。左から2位・荒川、優勝・石崎、3位渡辺の3選手。3. 3位入賞は渡辺大祐選手。

今年からシリーズ化されたミニチャレンジ。開幕戦は雨天の影響でセーフティカースタートとなり、わずか3周で赤旗となりました。4. 予選順位そのままに山田選手が1位に。5. 2位は一條孝吾選手。6. 村田信博選手が3位に。





ROADSTER CUPは今回が開幕戦。7.RSC2.0 オープン1位の白馬裕史選手。8.RSC1.6は辻本均選手が1位。9.ポール・トゥ・ウィンを飾ったRSC1.8の池島実紅選手。10.山田健介選手はRSC1.8の2位。11.RSC1.5 チャレンジ2位の五賀貴男選手。12.水野寿通選手はRSC1.6で2位。13.RSC2.0 チャレンジ2位は山本絵里子選手。14.長岡哲也選手がRSC2.0 オープン2位。15.RSC1.5 チャレンジ1位の寺下皓大選手。16.竹田幸一郎選手はRSC1.6の3位。17.RSC1.5 チャレンジ3位に山崎善健選手。18.松波太郎選手はRSC1.8の3位。19.RSC2.0 オープン3位の山口幸治選手。20.菊池聡選手がRSC2.0 チャレンジの1位。

激しい雨脚のため決勝はセーフティカースタートとなり、4周のうちに赤旗で終了となったLotus Cup Japan。21.飯田敏雄選手は初戦に続きクラス1の1位となった。22.クラス1の2位は滑川真央選手。23.草野誠二選手がクラス1の3位に。24.クラス2の2位に大塚彰利選手。25.秋葉一選手がクラス2の1位。

史選手と長岡哲也選手がつけていた。決勝でも後続が激しく争う間に、差を広げた池島選手がポール・トゥ・ウィンを達成。「まずはスタートがうまくいったので、最初の2〜3周でブッシュして離そうと。後ろも競っていましたが、作戦通りになりました」と池島選手。2.0 オープンクラスは「スタートから混戦に巻き込まれましたが、結果的には他のクラスの人を間に挟んで逃げ切れました」と語る高橋選手が優勝。そして1.6クラスでは辻本均選手が、2.0 チャレンジクラスでは菊池聡選手が優勝を飾っている。一方、最も激しいトップ争いが繰り広げられていた1.5チャレンジクラスは、五賀貴男選手と寺下皓大選手、山崎善健選手の三つ巴に。しかし、5周目に前に出た寺下選手が、最終ラップに抜け出す形となっていた。「苦手な混戦でしたが、なんとか耐えました。最後はタイヤだと思んですが、僕も疲れていたけれど、

まわりはもっとだったみたいですね」と寺下選手は安堵の表情で語っていた。

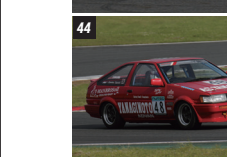
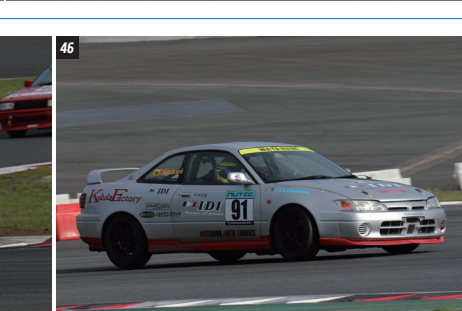
女性ドライバーが対象の、ナンバーつき競技車両による、L1 SERIES WOMEN'S GTは、スタート直前に降り始めた雨によって、スピンやコースアウトが続出、それでも1台のリタイアもなかったのは何よりだった。RSC1.8クラスで挑んだ岩岡万梨恵選手がポール・トゥ・ウィンを達成。「スタート前に雨が降ってきて、どうしようと思いましたが、今まで教わってきたことを思い出して、忠実に走ろうと。後ろを離せて、いろいろなラインを探りながら走

CARGUY SUPER CAR RACEは、2大会全4戦のうち、第1戦と第2戦が行われた。26.第1戦と第2戦で見事1位を獲得したのはXu Wei選手。27.1台のみ出走のIIIクラスは須田力/山口礼選手が勝利。28.2位と3位と連続入賞した近藤保/Kei Cozzolino選手。29.中原英貴/一ツ山亮次選手は第2戦で3位。30.第1戦の2位は木村武史/山崎裕介選手。





5つのクラスが入り混じるN1500 / N1400 / N1000 / Audi A1 FunCup / デミオのレース。**31.** 昨年の西日本ヴィッツレースのチャンプでもある三浦康司選手がAudiA1の1位。**32.**AudiA1の2位には林由理子選手。**33.** 林健一選手はAudiA1の3位に。**34.**N1000でポール・トゥ・ウィンを果たした1位の垣生彬選手。**35.**N1000の2位は菅野良男選手。**36.** 山崎じん選手がN1000の3位に。**37.**N1400の1位を獲得したのは最終ラップでの接戦を制した高橋ノボル選手。**38.**N1400の2位は大竹直選手。**39.** 斎藤和実選手がN1400の3位に。**40.** デミオレースは戸田和彦選手が1位となった。**41.**N1500の1位は長年レース活動を行うベテランの深沢雅文選手。**42.** 犬飼祐揮選手がN1500の2位に。



5クラス混走のMR2 / AE86 / N A1600 / シルビア・アルテッツァ / AE111。**43.** 山口崇選手がAE86の1位。**44.** AE86の2位は深沢智選手。**45.** 中村徹選手がAE86の3位に。**46.** AE111の1位に船木周一選手。**47.** 大沢雄哉選手がAE111の2位に。**48.** AE111の3位は塩岡雅敏選手。**49.** 秋元優範選手がNA1600の1位。**50.** NA1600の2位は竹内秀伸選手。**51.** 大石重之選手がNA1600の3位に。**52.** シルビア・アルテッツァの2位は新井伸明選手。**53.** 山崎浩明選手がシルビア・アルテッツァの1位。**54.** MR2は1台出走の谷田伸行選手が1位。



れましたので、雨の苦手意識もなくなって、まさに恵みの雨になりました」と岩岡選手。その後方ではND1.5チャレンジクラスの関崎祐美子選手と加藤沙也香選手が激しく競い合っていたが、最後まで逆転を許さず、関崎選手の優勝となった。「加藤さんが徐々に近づいてきましたが、雨が降っていることもあって、ラインを外したり、ブレーキで詰められなかったようです。私も冷静に走れて、怖さを感じていなかったのも、逃げ切れた理由でしょう」と関崎

選手。デミオクラスでは岡村英莉選手が、ヴィッツクラスではみなびよ選手が優勝を飾っている。

公認レースとしては初開催となったミニチャレンジは山田遼選手が、一條拳吾選手をコマ1秒差で従えてポールポジションを獲得。「みんなスリップストリームを使っていたようですが、僕は単独で(笑)。決勝がドライなら、すごく面白いバトルができるでしょうが、雨みたいなんでね……」と山田選手が予想した通り、あい

く雨模様。冒頭で触れた通り、SC先導のまま赤旗が振られ、レースは終了となった。「僕らが履いているのは、ウェットのレーシングタイヤなんで、できるとは思ったんですけどね」と、優勝認定の山田選手。

2レース行われたスーパーカーレースは、ピットストップハンディに助けられたシュウ・ウェイ選手が連勝。「連勝できて良かったです。運もありました。富士スピードウェイが好きになりましたよ!」とウェイ選手。



激しい雨で混戦となった86 & BRZ / 86BEAT / ROADSTER N1。**55.**JP-2Sの2位は田中雅之選手。**56.**鶴塚直人選手がJP-2Sの3位に。**57.**JP-2Sの1位入賞は清充秀選手。**58.**土本忍選手が86 & BRZの2位。**59.**86 & BRZの3位は松下浩平選手。**60.**呉良亮選手が86 & BRZの1位に輝いた。**61.**JP-3Sの1位は綾野興選手。**62.**小林純矢選手がJP-3Sの2位に。**63.**JP-3Sの3位に佐藤真子選手。**64.**常盤岳史選手がJP-4Sの1位。**65.**JP-4Sの2位は近藤哲矢選手。**66.**唐津拓也選手がJP-4Sの3位に。**67.**ロードスターN1の2位は福永健二選手。**68.**大野俊哉選手がロードスターN1の3位。**69.**ロードスターN1の1位に芝田敦史選手。**70.**松井有紀夫選手がJP-2Rの1位。



女性ドライバーたちのL1シリーズWOMEN'S GT。**71.**ND1.5チャレンジで1位の関崎祐美子選手。**72.**加藤沙也香選手はND1.5チャレンジで2位に。**73.**ND1.5チャレンジ3位はイマヌアキエ選手。**74.**岩岡万梨恵選手はRSC1.6/1.8/2.0の1位。**75.**RSC1.6/1.8/2.0の2位は熊下愛香選手。**76.**太田まや選手はRSC1.6/1.8/2.0の3位に。**77.**L1-デミオの2位に蓬次美選手。**78.**石井京子選手がL1-デミオの3位。**79.**L1-デミオの1位が岡村英莉選手。**80.**みなびよ選手がL1-Vitzの1位。**81.**L1-アクアで1位の辻田慈選手。**82.**丸山紗友里選手がL1-86 BRZの1位。**83.84.**別会場では一般参加者を交えたドライビングレッスンが実施された。